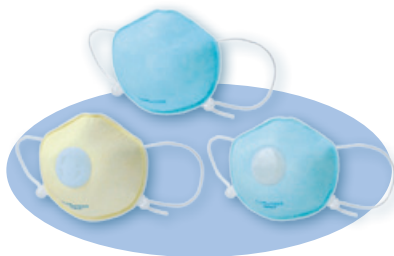


第52期 事業報告書

平成26年1月1日～平成26年12月31日



CONTENTS

株主の皆様へ	— 1
営業の概況	— 2
研究開発	— 3
会社が対処すべき課題	— 4
トピックス	— 6
業績の推移	— 8
貸借対照表の要旨	—10
損益計算書の要旨	—11
キャッシュ・フロー計算書の要旨	—11
株主資本等変動計算書の要旨	—12
剰余金の処分	—12
株式の状況	—13
会社の概況	—14
役員	—16
財務情報へのアクセス	—16

■表紙写真

KOKEN は、『クリーン、ヘルス、セーフティ』で、社会に貢献します。

上段：プレスリンクプロワーマスク「サカキ式BL-321S」

中段：オープンクリーンシステム「フロアーコーチEzp」

下段：子ども用マスク「ハイラックKIDS」シリーズ

株主の皆様へ

昨年当社グループは、新しい経営陣で新しい時代に挑戦することと致しましたが、新体制による船出はかなりほろ苦いものとなりました。その原因は、震災特需の消滅と防衛省向けマスクの受注減をクリーンビジネスの立ち上げで埋め合わせるという期初計画が、必ずしも期待通りに進まなかったことに尽きます。

昨年オープンクリーンシステム「KOACH」は、引合い検討件数残高が一昨年の600件から1,800件へと急増するなど、ユーザー様からは高い関心と称賛の声を頂きました。また同製品が機械工業デザイン賞の最優秀賞である経済産業大臣賞を受賞し、その高い評価が直ちに受注に結び付くと期待しましたが、各企業の財布の紐は予想以上に固く、予算取りは容易なことではなかったようです。昨年は特に受注を頂くことの難しさを肌身で感じ、改めてマーケティングの大切さを勉強させて頂きました。

幸い平成14年に当社が世界で初めて開発した「呼吸追従形プロワーマスク」が、昨年末より国家検定化となり、普及が促進されることが見込まれます。また、昨年70件の受注に終わった「KOACH」も現在までに約200件の年内納入が内定しており、いよいよ普及期を迎えることが見込まれます。今年こそその思いで、全力で経営に立ち向う覚悟であります。

当社グループは技術オリエンテッドで『クリーン、ヘルス、セーフティ』の分野で世の中にない新技術製品を次々と生み出していくことを社是としており、今後もこの方針を変えるつもりはありません。

今年の1月には「新たな抗菌剤の開発」を発表いたしました。世の中に抗菌剤は非常に沢山の種類が発売されており、事業化の困難さは十分理解しておりますが、極めて特長のある製品でありますので、しっかりとしたマーケティングを行い、ヘルス事業の中核事業に育て上げたいと考えております。

技術開発陣は更に更に特長を持った製品を生み出そうと努力を続けています。こうしたリスクを伴った先行投資をする企業こそ真の強い企業であり、最後には笑うことができるものと信じております。

株主の皆様におかれましても、どうか引き続き長い目でのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年 3月



代表取締役副社長
堀口展也

代表取締役会長
酒井眞一郎
(登記名 眞一)

代表取締役社長
村川 勉

営業の概況

営業の経過及び成果

当連結会計年度（平成26年1月～12月）におけるわが国経済は、緩やかな回復基調で推移しましたが、消費税率引き上げの影響や円安による原材料価格の上昇など国内景気を下押しする要因も見られ、先行きは不透明な状況が続きました。

このような経営環境の中、当社グループは足下の収益確保と業容の発展・拡大に向け、「クリーン事業の確立（KOACHテイクオフの実現）」及び「マスク関連事業の強化」等の取組みを行った結果、売上高は75億円となりました。なお、当期より連結対象といたしました海外生産子会社SIAM KOKEN LTD. は工場も完成し、平成27年夏からいよいよ生産を開始する予定です。

利益につきましては、原材料価格の上昇が続く中、生産の効率化等による売上原価の低減に努めた結果、売上総利益率は前期水準を維持することができましたが、電動ファン付き呼吸用保護具の国家検定化に伴う検定申請費用や子会社設立に関わる費用等による販売費・一般管理費が増加したため、営業利益3億70百万円、経常利益3億15百万円、当期純利益1億47百万円となりました。

セグメント別の業績は以下の通りであります。

（マスク関連事業）

震災対策用マスクの販売は、官公庁及び原発での備蓄一巡によって対前期比約3億円減少したことに加え、防衛予算の海空シフトの中で防護マスクについても受注減となりました。その一方で国内の民間製造業のマスク需要は増加傾向にあり、消費増税前に発生した一部商品の駆け込み需要の反動も見られず、受注は堅調に推移しました。

この結果、当事業の売上高は67億16百万円となりました。

（その他事業／環境関連事業等を含む）

オープンクリーンシステム「KOACH」につきましては、宇宙航空研究開発機構JAXA様や京都大学IPS細胞研究所様など最先端の研究機関での採用に加え、民間製造業の組立・検査などのライン作業用として採用されるなど、その用途は拡大しています。そうした動きに加え「フロアーコーチExp・Ezp」の機械工業デザイン最優秀賞（経済産業大臣賞）受賞も後押しとなり、物件情報数は前期末の3倍となる1,800件となりました。しかし、本格的な受注については、当初予定していた急激な増加は今一步のところ、到ることができませんでした。

しかし現在、平成27年中の納入内定の物件が増えていることから、ようやく事業の立ち上がり時期に近づいたと判断しております。

以上の状況から、当事業の売上高は7億84百万円となりました。

設備投資及び資金調達の状況

当連結会計年度の設備投資は、総額7億61百万円で、その主たるものは、子会社建物・生産設備3億56百万円、テクノヤード生産設備1億28百万円等であります。

当社グループは、運転資金の効率的調達を行うため、取引銀行5行と限度額32億円の当座貸越契約及びコミットメントライン契約を締結しております。

研究開発

当社グループの研究開発は、事業領域である『クリーン、ヘルス、セーフティ』に対し、自由で独創的な技術開発とその多面的応用を目指して活動しております。そして未来技術の基礎開発・応用開発にプロジェクトチームを含めマトリックス型の研究体制を敷いております。なお、研究開発担当人員は68名、当連結会計年度の研究開発費は、総額5億23百万円であります。

当連結会計年度中の主な開発製品は以下の通りです。

【マスク関連事業】

◇電動ファン付き呼吸用保護具（PAPR）「プレスリンクブローワー」シリーズ
厚生労働省の電動ファン付き呼吸用保護具国家検定化に合わせて開発しました。

・BL-300シリーズ

バッテリーを内蔵したコードレスPAPRの最軽量タイプで会話や指示を明瞭にする伝声器も内蔵したモデル



BL-300
シリーズ



BL-1005
シリーズ

・BL-1005シリーズ

PAPRに初めて静電フィルタを採用。溶接作業に最適なモデル

・BL-700シリーズ

防護性の高い全面形モデル



BL-700
シリーズ



BL-200
シリーズ

・BL-200シリーズ

伝声器を内蔵し、内圧監視機能を付属したモデル

・BL-100シリーズ

プレスリンクブローワーシリーズのスタンダードモデル



BL-100
シリーズ

【その他事業／環境関連事業等を含む】

◇オープンクリーンシステム「KOACH」シリーズ

・フロアーコーチTz

プッシュフードとガイドスクリーンだけの簡単な構成で、ISOクラス1を実現できるのがフロアーコーチです。「フロアーコーチTz」はプッシュフードユニットを2段積み重ねることで、人が立つのに十分な高さ2,100mmのスーパークリーン空間を確保する設計を行っています。これにより、一般的な天井高の既存建屋の実験室や研究室を改築することなく、スーパークリーンルームを簡単に導入することができます。



フロアーコーチTz用
プッシュフード
KOACH G1050-F

◇全自動内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍」

・KOM-ED-O2

自動ブラッシング機能と電解水生成装置を搭載して、内視鏡を全自動で洗浄消毒する「鏡内侍」のモデルチェンジを行いました。

今回のモデルチェンジによって、副送水付きの内視鏡にも対応可能となり、また電解水の生成スピードが約1.5倍向上したことで、内視鏡検査数が多い施設でも、より確実に安全・安心な洗浄消毒ができるようになりました。



鏡内侍KOM-ED-O2

会社が対処すべき課題

当社グループが今後も成長を続けていくためには、以下の事項を会社の対処すべき課題と捉え、その解決のために全社を挙げた取組みを引き続き行って参ります。

- ・企業DNAの継承
- ・クリーン事業の確立
- ・マスク関連事業の医療・一般消費者市場への取組み強化
- ・ヘルス分野での新事業の展開

【企業DNAの継承】

当社グループは会社設立以来、創業家の酒井家を中心として発展を続け、産業用マスクの国内トップメーカーという確固たる地位を築きました。当社グループはそうした現状に甘んじることなく、『クリーン、ヘルス、セーフティ』を追求し、業容の拡大と発展を目指しておりますが、それを実現するために酒井家に依存しない人材の開発と次期経営者の育成に力を入れ、経営陣については大幅な若返りを図りました。そして更なる経営体制の強化を目的とし、5本部体制をスタートさせております。

新設したマーケティング本部は、当社グループ最大の強みである技術開発力を収益に結び付けるため、既存市場での占有率アップと新しい市場開拓の企画立案を担う専門部隊です。高い技術開発力と卓越した営業力を今後更に進化させて参ります。

そして新しい体制でのぞむ新経営陣は、これまで進めてきた興研のDNAを礎にし、「①人を育てる」「②技術を育てる」「③クリーン、ヘルス、セーフティの分野で新市場を育てる(クリーン、ヘルス、セーフティで社会に貢献する)」という3つの経営理念を高く掲げ、更なる企業の発展に向かって参ります。

【クリーン事業の確立】

オープンクリーンシステム「KOACH」は、国内最先端の研究機関に加え、民間製造業の組立・検査ライン作業用としても、その独自のクリーン化技術が高く評価され、採用が広がっています。当社グループは、この「KOACH」を昨年のテイクオフからいよいよ成長軌道に乗せ、クリーン事業の確立に努めて参ります。

「KOACH」は、平成26年の機械工業デザイン賞受賞に続き、平成27年には優秀省エネルギー機器として表彰されるなど、日本の産業再生の鍵(高度化、精密化)とされるスーパークリーンの実現だけでなくコストダウンをも可能とするシステムとして高く評価されています。



フロアーコーチEzp
(ルーム型)



テーブルコーチ
(フルオープン型)

昨年末で1,800件を超えた物件情報を確実に成約に結び付け、本事業をマスク関連事業に並ぶ大きな柱に育てて参ります。

【マスク関連事業の医療・一般消費者市場への取組み強化】

近年、院内感染や食中毒など、細菌やウイルスに起因する感染症に加え、鳥インフルエンザやエボラ出血熱などの拡大、また火山噴火や地震などの自然災害への備えも必要とされるなど、社会不安は益々増加しています。

当社グループはそうしたパンデミック・エマージェンシー対策用としてマスクの必要性を今後も訴え続けます。

当社グループは、産業分野だけでなく医療機関に対しても「マスクの正しい装着方法」や「フィットの重要性」を伝える活動が続け、マスクの漏れ率測定を体験された方は30万人を超えました。また、子ども用マスクによる一般消費者市場への参入も果たし、今後は医療及び一般消費者市場においても、確固たる地位の構築を目指します。

なお、使い捨てマスク「ハイラック」シリーズの受注増への対応及びパンデミック時の供給責任を果たすべくタイに設立した生産子会社（SIAM KOKEN LTD.）は、平成27年夏より操業を開始します。



御嶽山噴火の捜査・救援活動で使用された当社製防じん・防毒マスク

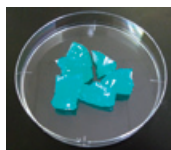
【ヘルス分野での新事業の展開】

当社グループは、「銅」と「乳酸」を当社独自の製法で反応させることにより、高い抗菌作用、防カビ性、抗ウイルス性を持ち合わせながら、生体安全性が高く環境にも優しい抗菌剤「イマディーズ™」を開発いたしました。本抗菌剤は、ゲル状の個体で、繊維・ゴム・プラスチック等への塗布・含浸などによるコーティングや原材料への練り込み・溶かし込みによるブレンドなど、加工性が非常に高いという特長を持っています。

今後は、抗菌性能を付加したマスクや保護衣など、感染対策・パンデミック対策製品への応用や医療機器・その他抗菌製品の開発を進めるほか、抗菌材料としての外販及び提携、ライセンス等も視野に入れた事業展開を図り、ヘルス分野での大きな柱に育てて参ります。



タイの生産子会社
SIAM KOKEN LTD.



銅系抗菌剤イマディーズ™

トピックス

フロアーコーチExp・Ezpが「機械工業デザイン賞 最優秀賞（経済産業大臣賞）」を受賞

スリープモード付きオープンクリーンシステムKOACH「フロアーコーチExp・Ezp」が日刊工業新聞社主催の機械工業デザイン賞で最優秀賞（経済産業大臣賞）を受賞しました。

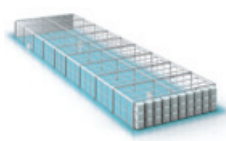
本賞は、性能向上や産業振興のため、新しいデザインの在りようを明らかにしていくことを目的に、1970年、日刊工業新聞社が経済産業省の後援、日本商工会議所、各工業団体の協賛を得て創設されました。生産財を主な対象として行われる審査は、的確な企画で独創性があり、「①機能・品質が優れ、安全性の条件を十分に満たしていること、②造形処理が総合的によくまとめられていること、③合理的価格であり、市場性及び社会性の高いこと」が基準とされています。審査委員会は関係省庁、大学、各工業団体の権威者で構成されており、委員代表の千葉大学青木弘行名誉教授からは、「フロアーコーチExp・Ezpは、独創的な技術開発成果を基盤としてデザインによる企業独自のバランス解を創出している。」とのご講評を頂きました。

過去に最優秀賞を受賞した製品の中には、全自動金属加工システムなどの生産機械などのほかに、CTスキャナやファイバースコープなどの医療機器、スーパーコンピュータや汎用シーケンサなどの精密機械、500系新幹線やリニア地下鉄3000系車両など、各時代のデザインの方向性を示唆する先端的製品として高く評価される製品が並んでいます。

これまでその機能性や独創性が高く評価されてきた「KOACH」ですが、本賞の受賞によって機能性、独創性のもとより、造形処理の優秀性や市場性、社会性も高く評価して頂く結果となりました。



贈賞式（平成26年7月24日）



受賞製品 フロアーコーチExp

様々な分野で採用が進む

オープンクリーンシステム「KOACH」

「KOACH」は、廉価でどこでも簡単に導入でき、実に使いやすいスーパークリーン空間を作り出すクリーン化装置です。

同装置は、「①圧倒的に清浄度が高く、クリーン度の維持も楽、②建屋でなく機器なのでコストが安い、③オープンなので、使い勝手が良い、④消費電力が低い、⑤ルーム型コーチは、移動が可能で拡大縮小もでき、クリーンを必要

とする限り投資に失敗しない、⑥天井に重量物がなく地震に強い、⑦設置期間が圧倒的に短い」等の導入メリットにより、「研究室を変える、生産現場を変える、中堅・中小企業も変える」クリーンシステムとして産業技術や研究開発など、様々な分野で採用が進んでいます。

主な採用先は、次の通りです。

研究機関	大学	民間企業
宇宙航空研究開発機構	東京大学	島根富士通
産業技術総合研究所	東北大学	山形カシオ
理化学研究所	山形大学	三井化学分析センター
物質・材料研究機構	信州大学	キリン 飲料研究所
食品総合研究所	名古屋大学	光学・精密機器メーカー
国立天文台	京都大学	半導体部品メーカー
海洋研究開発機構	広島大学	自動車メーカー
情報通信研究機構 ほか	山口大学 ほか	工業用機械メーカー ほか

※民間企業名は、ご要望により一部記載を控えております。

マスクフィッティング測定サービスの 体験者が30万人を突破

世の中には、様々なマスクが存在しますが、たとえ99.9%という高い捕集効率を誇る防じんマスクであっても、顔にフィットしていなければ、生じたすき間から粉じんが侵入し、高いフィルタ性能も効果がないものになります。

当社グループは、マスクメーカーの使命として「フィット性の高いマスク」をお客様にご提供すると共に、「マスクを正しく選び、正しく装着することの効果」をお伝えするため、マスクの漏れ率を測る「マスクフィッティング測定サービス」を実施しています。平成19年より始めた同サービスの体験者は累計で30万人を超え、フィットの重要性の認識も高まりつつあります。

そして体験者数の増加とともに、高性能でフィット性の高い当社製マスクのご用命を頂いております。

当社グループは、産業・医療分野のみならず、一般分野まで本サービスの範囲を拡大し、国民の一人おひとりが「フィットの重要性」を認識していただけるよう「マスクの正しい選び方、正しい装着方法」等を啓発する活動を今後も続けて参ります。

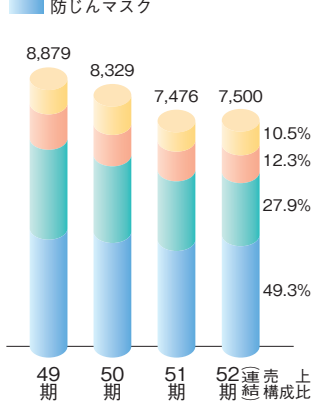


平成26年12月末現在	産業分野	医療分野	合計
体験者数(人)	205,720	103,937	309,657
件数(件)	11,391	8,214	19,605

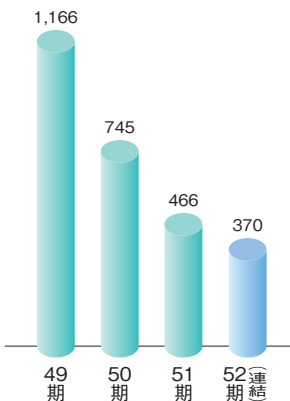
業績の推移

■売上高（百万円）

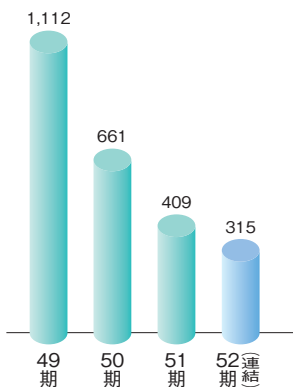
- 環境改善工事及び機器
- 防じんマスク・防毒マスク関連その他製品
- 防毒マスク
- 防じんマスク



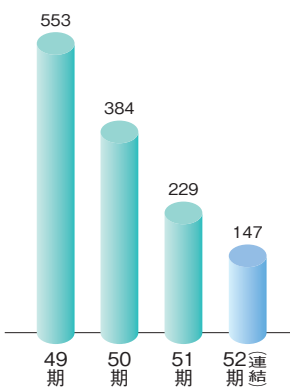
■営業利益（百万円）



■経常利益（百万円）

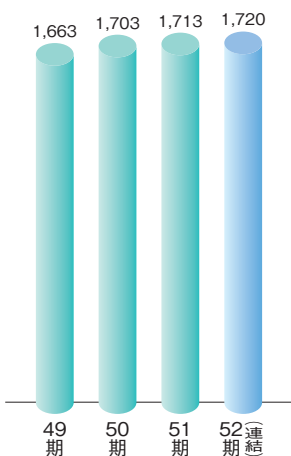


■当期純利益（百万円）

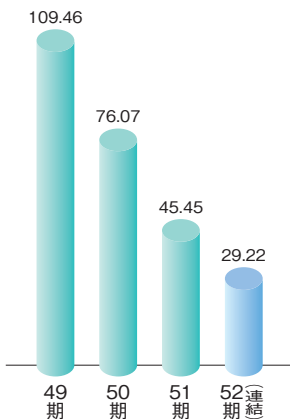


（注） 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

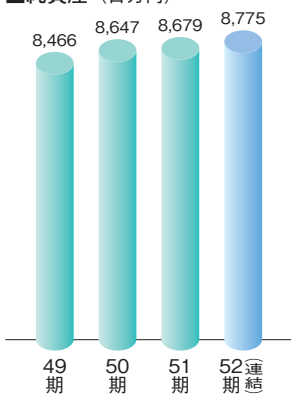
■ 1株当たり純資産額（円）



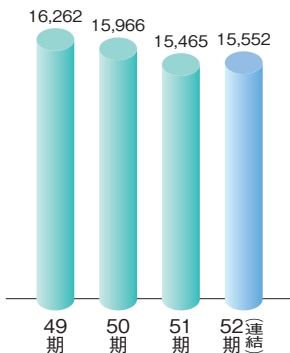
■ 1株当たり当期純利益（円）



■ 純資産（百万円）



■ 総資産（百万円）



（注） 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

科 目	当連結会計年度 (平成26年12月31日現在)	前事業年度 (平成25年12月31日現在)
●資 産 の 部		
流 動 資 産	6,733	6,451
現 金 及 び 預 金	1,911	1,652
受 取 手 形	1,313	1,154
売 掛 金	2,172	2,224
た な 卸 資 産	1,062	1,139
そ の 他 の 流 動 資 産	276	285
貸 倒 引 当 金	△4	△4
固 定 資 産	8,819	9,014
有 形 固 定 資 産	7,541	7,261
無 形 固 定 資 産	95	79
投 資 そ の 他 の 資 産	1,182	1,673
資 産 合 計	15,552	15,465
●負 債 の 部		
流 動 負 債	3,654	4,032
買 掛 金	158	144
短 期 借 入 金	1,500	2,000
1 年 内 返 済 予 定 の 長 期 借 入 金	1,238	1,124
未 払 金	188	151
未 払 費 用	153	149
そ の 他 の 流 動 負 債	416	462
固 定 負 債	3,122	2,753
長 期 借 入 金	2,510	2,168
そ の 他 の 固 定 負 債	612	585
負 債 合 計	6,777	6,785
●純 資 産 の 部		
株 主 資 本	8,669	8,639
資 本 金	674	674
資 本 剰 余 金	527	527
利 益 剰 余 金	7,525	7,531
自 己 株 式	△58	△93
その他の包括利益累計額	48	10
その他有価証券評価差額金	16	10
為 替 換 算 調 整 勘 定	32	-
新 株 予 約 権	57	29
純 資 産 合 計	8,775	8,679
負 債 ・ 純 資 産 合 計	15,552	15,465

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

前期は、連結決算を行っていないため、参考情報として単体数値を記載しております。

損益計算書の要旨

(単位：百万円)

科 目	当連結会計年度 (平成26年1月1日から 平成26年12月31日まで)	前事業年度 (平成25年1月1日から 平成25年12月31日まで)
売上高	7,500	7,476
売上原価	4,183	4,183
売上総利益	3,317	3,292
販売費及び一般管理費	2,947	2,825
営業利益	370	466
営業外収益	29	25
受取利息	0	0
その他の営業外収益	29	24
営業外費用	84	82
支払利息	56	62
その他の営業外費用	28	20
経常利益	315	409
特別損失	3	1
税金等調整前当期純利益	312	408
法人税、住民税及び事業税	129	160
法人税等調整額	35	19
当期純利益	147	229

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。
前期は、連結決算を行っていないため、参考情報として単体数値を記載しております。

キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位：百万円)

科 目	当連結会計年度 (平成26年1月1日から 平成26年12月31日まで)	前事業年度 (平成25年1月1日から 平成25年12月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	687	806
投資活動によるキャッシュ・フロー	△597	△708
財務活動によるキャッシュ・フロー	△238	△766
現金及び現金同等物の期末残高	1,911	1,652

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。
前期は、連結決算を行っていないため、参考情報として単体数値を記載しております。

株主資本等変動計算書の要旨

当連結会計年度

(平成26年1月1日から平成26年12月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当連結会計年度 期首残高	674	527	7,523	△93	8,632
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			△126		△126
当期純利益			147		147
ストックオプション の行使			△20	35	15
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中 の変動額合計	-	-	1	35	37
当連結会計年度 期末残高	674	527	7,525	△58	8,669

	その他の包括利益累計額			新株予約権	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の 包括利益 累計額合計		
当連結会計年度 期首残高	10	0	10	29	8,672
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当					△126
当期純利益					147
ストックオプション の行使				△2	13
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	6	31	37	30	67
連結会計年度中の変動額合計	6	31	37	27	102
当連結会計年度 期末残高	16	32	48	57	8,775

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

剰余金の処分

期末配当に関する事項

①配当財産の種類

金銭

②配当財産の割当に関する事項及びその総額

配当総額 126,681,400円 (1株につき25円)

③剰余金の配当が効力を生じる日

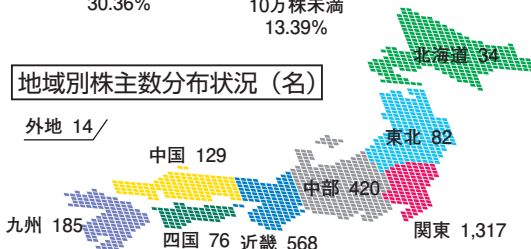
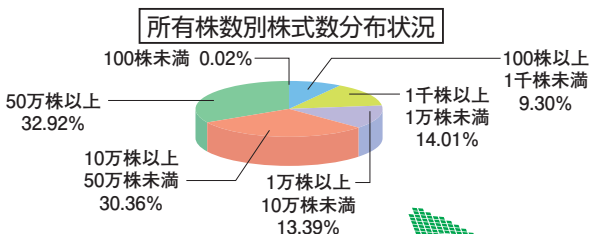
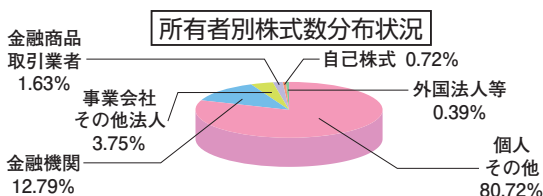
平成27年3月26日

株式の状況 (平成26年12月31日現在)

◆発行可能株式総数	20,000,000株
◆発行済株式の総数	5,104,003株
◆株主数	2,825名
◆資本金	674,265,291円
◆単元株式数	100株
◆大株主（上位5名）	

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
酒井 眞一	856,000	16.89
酒井 宏之	824,400	16.27
(株)りそな銀行	244,300	4.82
酒井 香織	229,600	4.53
酒井 理絵	229,600	4.53

(注) 持株比率は自己株式（36,747株）を控除して計算しております。



会社の概況 (平成26年12月31日現在)

◆主な事業内容

当社グループは、防じんマスク、防毒マスクなどの労働安全衛生保護具及び環境関連機器・設備の製造、販売を行っています。

◆従業員数

225名（うち当社216名）

◆主な事業所及び工場

①当社

本社	東京都千代田区四番町7番地
狭山テクノヤード	埼玉県狭山市広瀬台2-15-33
群馬テクノヤード	群馬県みどり市笠懸町久宮381-1
所沢テクノヤード	埼玉県所沢市城858-1
中井テクノヤード	神奈川県足柄上郡中井町井ノ口2442-12
嵐山テクノヤード	埼玉県比企郡嵐山町花見台3-3
飯能研究所	埼玉県飯能市川寺568
埼玉配送センター	埼玉県比企郡嵐山町花見台3-3

②連結子会社

SIAM KOKEN LTD. タイ王国チョンブリ県

本 社



狭山テクノヤード



群馬テクノヤード



ISO 14001環境マネジメントシステム審査登録

所沢テクノヤード



ISO 14001環境マネジメントシステム審査登録

中井テクノヤード



ISO 14001環境マネジメントシステム審査登録

嵐山テクノヤード



SIAM KOKEN LTD.

飯能研究所



◆営業拠点



◆品質保証体制

ISO 9001品質マネジメントシステム全事業所一斉審査登録

登録番号：JSAQ 405

適用規格：JIS Q 9001: 2008, ISO 9001: 2008

登録日：1999年1月4日

役員 (平成27年 3月25日現在)

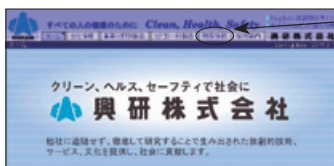
代表取締役会長	酒 井 眞 一
代表取締役社長	村 川 勉
代表取締役副社長	堀 口 展 也
専 務 取 締 役	村 松 光 二
専 務 取 締 役	田 中 文 和
常 務 取 締 役	井 端 秀 明
取 締 役	長 坂 利 明
取締役相談役	酒 井 宏 之
常 勤 監 査 役	小 山 悦 男
常 勤 監 査 役	秋 山 俊 雄
監 査 役	階 戸 照 雄
監 査 役	白 日 光

常務執行役員	齊 藤 雄 司
執 行 役 員	伊 藤 善 博
執 行 役 員	木 村 一 志

財務情報へのアクセス

ホームページ <http://www.koken-ltd.co.jp/>

- ①アドレスを入力してください。
- ②財務情報をクリックしてください。
- ③スクロールしながら、各情報をご確認ください。



財務情報
クリック

項目	前年度		当年度		前年度	当年度
	12月期	12月期	12月期	12月期		
売上高	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
営業利益	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
経常利益	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
純利益	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000

株主メモ

事業年度	1月1日～12月31日
定時株主総会	3月
基準日	12月31日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	同上
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711（フリーダイヤル）
上場証券取引所	東京証券取引所（JASDAQ）
公告の方法	当社ホームページに掲載 http://www.koken-ltd.co.jp/ ただし、やむを得ない事由にて電子公告が行えない場合は、日本経済新聞に公告いたします。

各種お手続きについて

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、口座管理機関の三菱UFJ信託銀行までお問い合わせください。
なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。
（お問い合わせ先）
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 - ・連絡先 0120-232-711（フリーダイヤル）
 - ・ホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>
 - ・電話による用紙請求（24時間自動音声応答サービス）
0120-244-479（フリーダイヤル）
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

クリーン、ヘルス、セーフティで社会に



興 研 株 式 会 社